

2022 年度 滋賀会第 1 回定例研修報告

滋賀森林インストラクター会

■実施日 2022 年 4 月 24 日 (日)

■場 所 高島市マキノ地区 / 黒河峠付近

■行 程 マキノ駅 9:36ー黒河林道駐車場所 9:55...

黒河峠トイレ 12:46...ブナ林 12:58 昼食

ブナ林 13:18...キンコウカポイント 13:55...

峠トイレ 14:09...駐車場所 14:45ーマキノピクランド

15:04 休憩ーマキノ駅 15:40

■参加者 佐々木、梶谷、高橋、小西、平田(2)、橋木
関澤、森上(報告) 中村(一般) 以上 10 名



マキノ黒河林道付近の地図

■下見の報告(下見の部分だけ 文責;小西)

- ① 4 月 17 日 当初予定の目的地「寒風」を、当会会員の谷口さんの勧めで、「大谷山」に改め、下見を実施しました。参加者は梶谷、橋木、関澤、小西の 4 人。
登山道に残雪が多く、また、雪折れの木が歩行の邪魔をするなど、大谷山どころか、稜線の白石平やその手前の森のレストランさえ辿り着けない結果となり、本番では時間に追われて十分な研修が保証できないように感じましたので、今回は目的地を「黒河峠付近」に変更することとしました。

下見で確認した植物で 4 月 24 日の本番で出会えなかったものは、カタクリ、ヤマナシ、マキノスミレ、**キクバオウレン**、カスミザクラ、オオタチツボスミレ、トゲミノキツネノボタン(帰化)などです。

- ② 4 月 20 日 中川さんの会計監査を受けた後、変更したコースの下見に行ってきました。
下見で確認できたことは、黒河林道途中の駐車場所があまり広くないこと、その駐車場所からすぐの所にチェーンで一般車が進入禁止になっていること、林道そのものはよく整備され、歩きやすくなっていることなどです。

■下見で見られた似ている植物の検索

・県内でみられるオウレン類

キクバオウレン 葉が 1 回 3 出複葉

- セリバオウレン 葉が2回3出複葉
 コセリバオウレン 葉が3回3出複葉
 バイカオウレン 葉が掌状複葉(5小葉)、小葉柄が明瞭、黄色の花弁は円形
 キタヤマオウレン 葉が掌状複葉(3or 5小葉)、小葉柄が不明瞭、花弁は楕円形
- ・イワウチワ類 3変種で花の形態や大きさに差異はない。和名が研究者によって混乱。
- イワウチワ 北陸～近畿に分布。葉身基部が円形～楔形、時に僅かに心形。
これをトクワカソウとする研究者あり。
- コイワウチワ 宮城～東京の太平洋側の山地に分布。葉は小さく、葉身は横広、基部は深く心形。上をトクワカソウとする場合これをイワウチワとする。また、別名カントウイワウチワとも。
- オオイワウチワ 秋田～新潟の日本海側の山地に分布。葉は大きく、大人の手のひら大(指は除く)。葉身の長さとはほぼ同長。葉身基部は心形。

■「黒河（くろこ）峠」の紹介 <ネットからの引用>

標高 567m の福井県と滋賀県の県境にある峠である。中央分水嶺の1つであり、峠は高島トレイルの重要な拠点である。峠の北側の福井県敦賀市に黒河川（くろこがわ）が流れ下り、この「黒河」という河川名が峠名の大元と想像される。

黒河林道とマキノ林道の双方の起点となっており、また三国山、赤坂山の登山口があるなど、歴史ある交通の分岐点として機能している。かつては鯖街道と並行する街道筋としてそれなりの賑わいがあったが、その役割は現在国道 161 号や国道 367 号に完全に譲っている。

■研修報告

石で車止めをした先の林道へ。雪が残っているというだけあって、季節がバックしたかのような世界が広がっていました。



ナガバモミジイチゴの花



マムシグサの仲間もようやく、若葉の部分が・・・



オオバキスミレ&ゼンマイ

「オオバキスミレ」は、積雪量の多い日本海側の山地に分布。
レッドリストに指定を受けています。

滋賀県では、「**分布上重要種**」に指定されています。

この鮮やかな黄色が、雪の残る山肌に咲き乱れ、崖っぶちに土
砂と共に押し流されても、芽吹く生命力に元気をもらいました。



オオバタネツケバナ

本州中部と関東北部の山
地～亜高山帯の溪流沿い
や湿地などに生育する。



イワウチワ（岩団扇）

葉の形が、団扇に似ている
群生が見られました。



スミレサイシン

開花後の葉の形が、ウスバサ
イシンに似ている。



ショウジョウバカマ



← チャルメルソウ
果実が熟して上向きに
開いた様子が中国の
「チャルメラ」に似ている。



葉が常緑で、翌年まで残る。



トキワイカリソウ

岩場に多く生え、葉に光沢がある。



オオイワカガミ (大岩鏡)

果実に、ナシのような甘みがある。



イワナシ

しはい→紫背
葉裏が紫色を帯びる



シハイスミレ



タチツボスミレ

葉が美しく、錦の衣をまとっているかのよう。



ニシキゴロモ (錦衣)



雪が何カ所も残っている中を進みました。
湖西北部は雨の降り出しが遅かった分、野草たちが開花した状態で待っていました。





ウリハダカエデの花



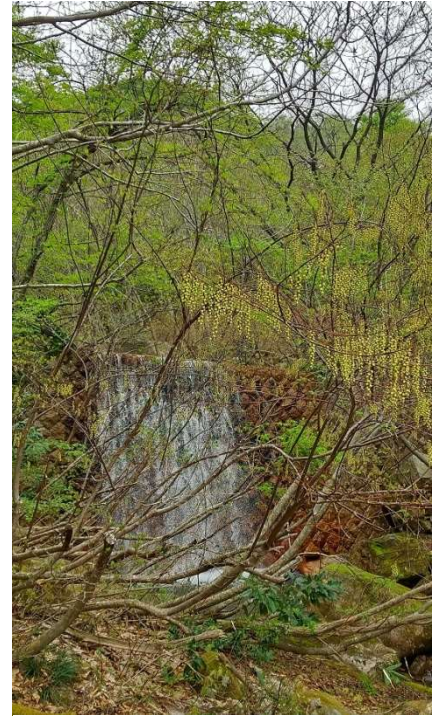
成木の肌



キブシの雌花



クマシデの雄花



滝の前に垂れ下がるキブシの花



カナクギノキ（開花間近）
成木の樹皮が剥がれると鹿の子模様になるところから、「鹿の子木の木」が転訛？



シロダモの新芽は花が咲いたよう！



ナナカマド



まだ蕾のウワミズザクラ



葉柄が5 mmのミズナラの若葉



キンキマメザクラ



敦賀方面は、雨に
煙って見えません
でした。でも、新
緑の美しさは、言
葉にならないくら
いでした。
ブナの下で雨をし
のいで、昼食を。



ブナのフタバ発見！



雄花は、ふわふわ！



そろって、お芽出とうございます！

ブナは、地上子葉性。ブナの仲間のドングリ類は、地下
子葉性で、ドングリそのものが双葉。発芽は本葉。



実をいっぱいつけそうなブナ



お腹も満たされ
ました。
ブナの芽を踏ま
ないように・・・。

自然の中にとけ
込んでいるよう
に、思われません
か・・・？



霧雨に煙る幻想的な風景。何度も何度もカメラを構えました。ただ、冬の積雪量が近年になく多かったために、枝が折れるどころか、根返りが何本も見られました。



チャボガヤ（矮鶏榧）

日本海側の多雪地帯に適応。カヤの変種で、2mほどにしかない。



少し高所で見られる



ハウチワカエデ

花が垂れるように咲く



ヤマグルマの実



タムシバの花

花弁が取れて雄蕊・雌蕊が見える



峠周辺はウリハダカエデの幼木が目立つ



ツノハシバミ

雄花は、穂状花序を下垂する。雌花序は、数個の花が頭上に集まり、赤い花柱がひげのように、芽鱗からのぞく。



マルバマンサクの若葉

花が雪の残る早春に咲くため「まんず咲く」(まず咲く)から、マンサクに。



カナクギノキの花芽と葉芽



ウリカエデの花

カエデの仲間では最小。緑色の樹皮に黒い筋が入る様子が瓜に似ている



地図でポイント指定のあった「キンコウカ」は、7月～8月頃に見られる野草です。北海道、本州の中部以北に分布し、亜高山から高山にかけての湿原、湿地などに群生する、日本固有種です。

こうした植生の豊かな山々が、琵琶湖に恵みを与えています。

今年も昨年に引き続き、琵琶湖の「全層循環」いわゆる「琵琶湖の深呼吸」が見られました。ここの大雪も琵琶湖を冷やしたようです。

過日、大阪湾の磯での活動体験をしましたが、改めて、山、川、湖（海）のつながりを意識することの大切さを感じています。 <報告：森上>